

祈りを学ぶ

(マタイ6・5〜8)

一、偽善者にならないように

5節をご覧ください。〈また、祈るときには、偽善者たちのようであってはいいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。〉と主イエスは語られました。だれを指して語られたのでしょうか。お分かりのように、イエス時代のユダヤ人でした。しかもパリサイ派という、ユダヤ教に熱心な人たちでした。彼らは民衆から尊敬されていました。実際、彼らは、毎日熱心に神に祈っていました。ところが、そういう人たちが指して、主イエスは「偽善者たち」と語られました。どこが偽善者、すなわち見せかけの信仰者だったのでしょうか。「私はこれだけ祈っています。私は祈りの人です」と思う自負心によってです。

祈るのは良いことです。時間を決めて、祈ることは良いことです。ですが、「私は祈りの人です。なぜなら、毎日時間を決めて、祈っているからです。最低でも毎日一時間は祈っています」と思

い、心の中で自慢しているなら、神は喜ばれません。場合によっては「偽善者よ」

と言われてしまうかも知れません。

二、奥まった部屋で祈る

では、どのような祈りが良いのでしょうか。6節を見てまいります。〈あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。〉と、人となられた神、イエス・キリストはおっしゃいました。当時のエルサレムに住むユダヤ人に、「自分の奥まった部屋」なるものはあったのか、良く分かりませんが、工夫するならば「自分の奥まった部屋」を確保することができたと思われる。たとえば今日、都会に住んでいたら、風呂場とか、車の中です。

では、周囲の人が分からないようにして祈り、「きょう私は〈自分の奥まった部屋〉で二時間祈ることができました。昨日は三時間祈りました」という祈りを、主イエスは喜ばれるでしょうか。そういうことをおっしゃっているのではないようです。と言いますのは、周囲は知らなくとも、自分は意識しているからです。では、どういう祈りが良いのでしょうか。それは、自分でも気がつかないうちに祈りに導かれ、気がついたらずいぶん長く祈っていた、という祈りです。

三、自分の熱心ではなく

さらに、祈りについて、もう一つ教えられます。7節です。〈また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。〉と、主イエスは教えられました。まことの神を知らない人の祈りは、昔も今もこのようになるのでありません。なぜ、同じことばをくり返すのでしょうか。祈りが聞かれるのは自分の熱心による、と考えるからです。そういう祈りを、神は良しとされません。祈りは、神との駆け引きによって、天から答えを引き出すものではないからです。主イエスさまはおっしゃいました。8節です。〈だから、彼らのまねをしてはいけません。〉と。

天の父は、自分たち以上に自分のことをご存じですから、私たちがお願いする先に、私たちが必要なものをご存じです。そのことが、8節の続きで語られています。〈あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。〉と。ならば、なぜ「祈りなさい」とおっしゃるのでしょうか。私たちに必要なものを天の父がご存じなら、祈らなくともかまわないじゃないですか。ですが、ここはそういう意味ではなく、私たちが神に信頼して祈る時に、神は

私たちが思うよりも願うよりもはるかにふさわしいものをくださるのです。

四、御霊によって祈る

祈りについて、締めくくりにお語りするのは、「御霊によって祈る」、あるいは「御霊に導かれて祈る」ことです。祈りは、天地を造られた神に話しかけ、神の言葉を聞くことです。そんなことのできるのでしょうか。考えれば考えるほどむずかしいです。ですが、創造主なる神はイエス・キリストという、神にして人となられたお方を遣わしてくださいました。そしてこの方が、神と人をつなぐ架け橋となってくださいました。イエス・キリストを通して、そして聖霊なる神の助けによって、私たちは神と交わることが出来ます。

祈りは、御霊に導かれることによつて、神が良しとされる祈りになります。パウロは、「どんなときにも御霊によって祈りなさい」(エペソ6・18)と語りました。あるいは、「私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいませ」(ローマ8・26)とも語りました。

秘訣は御霊です。主イエス・キリストを信じている方は、御霊、すなわち聖霊なる神にゆだね、御霊に導かれて祈りましょう。